



2024年7月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2024年3月11日

上場会社名 株式会社 メディアシーク
コード番号 4824 URL <https://www.mediaseek.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 西尾 直紀
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員業務管理部長 (氏名) 立石 章
四半期報告書提出予定日 2024年3月14日
配当支払開始予定日
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東
TEL 03-5423-6600

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第2四半期の連結業績(2023年8月1日～2024年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第2四半期	479	13.8	34	30.1	64	81.7	40	54.4
2023年7月期第2四半期	421	6.3	26	50.3	35	58.6	26	64.8

(注) 包括利益 2024年7月期第2四半期 4百万円 (%) 2023年7月期第2四半期 11百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第2四半期	4.13	
2023年7月期第2四半期	2.67	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年7月期第2四半期	3,893	3,152	80.4	321.45
2023年7月期	3,856	3,166	81.6	322.89

(参考) 自己資本 2024年7月期第2四半期 3,132百万円 2023年7月期 3,146百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期		0.00		1.00	1.00
2024年7月期		0.00			
2024年7月期(予想)				1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日～2024年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	924	6.1	43	3.5	187	139.3	127	110.5	13.03

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年7月期2Q	9,766,800 株	2023年7月期	9,766,800 株
期末自己株式数	2024年7月期2Q	23,345 株	2023年7月期	23,345 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年7月期2Q	9,743,455 株	2023年7月期2Q	9,743,455 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に掲載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】「1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	8
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	9
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	12
(継続企業の前提に関する注記)	12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	12
(セグメント情報等)	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されたこと等により、緩やかな回復の兆しがみられる一方で、ウクライナ情勢の長期化や、原材料価格の高騰による物価上昇等、経済の先行きに係る不確実性は依然として高い状況が続いております。

当社グループは、「善いものを生みだし続ける」を経営理念に定め、既にビジネスモデルの確立した事業を堅実かつ安定的に成長させると同時に、ここで獲得した資金を原資に継続的に新規事業領域への投資を行うことで、企業体の存続と新規ビジネスモデルの生成を永続的に両立させることを経営方針としており、引き続きコーポレートDX、画像解析・AI、ライフスタイルDX、ブレインテック・DTx及びベンチャーインキュベーションの5つの事業領域をターゲットにビジネス展開を行っております。

働き方改革及びテレワークの浸透並びに業務プロセスの効率化等のDXの推進によりITサービスの需要は堅調に拡大しております。当社グループは、これらの状況を踏まえた上で、新たな市場トレンドに対応した成長市場向けサービス強化と新規ビジネス拡大を進めております。また、社内体制整備の側面においても、働き方改革及びテレワークの社会的普及のトレンドを先取る形で首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニア確保のスキーム構築を進めており、一定の成果が表れております。

当第2四半期連結累計期間においては、「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいて、国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティング業務による売上を計上しました。「画像解析・AI」ビジネスユニットにおいては、スマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心に、主にスマートフォン向け広告収入による売上を計上しました。「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」による売上のほか、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。

その結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、479,698千円(前年同期比13.8%増)、営業利益は、34,117千円(前年同期比30.1%増)、経常利益は、64,738千円(前年同期比81.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、40,193千円(前年同期比54.4%増)となりました。「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいて展開する「マイクラス」の受注が引き続き好調であること等が主要因となり、前年同期に比べて大幅な増収増益となっております。

セグメントごとの経営成績は以下の通りです。

(コーポレートDX)

「コーポレートDX」ビジネスユニットにおいては、主に国内の法人クライアントに対するシステムコンサルティングサービスを実施しました。その結果、同ビジネスユニットの当第2四半期連結累計期間の売上高は、162,793千円(前年同期比4.7%増)、セグメント利益は、76,532千円(前年同期比26.4%増)となりました。国内におけるDXの推進によるITサービスの需要拡大の流れを受け、売上高及びセグメント利益は前年同期に比べ増加しております。また、引き続き、首都圏在住にこだわらない流動的かつ機動的なエンジニア確保のスキームの構築を進めております。その結果、以下の表のとおり、セグメント利益率が上昇傾向にあり、生産性の向上がみられる結果となっております。

	2021年7月期 第2四半期 (注)	2022年7月期 第2四半期	2023年7月期 第2四半期	2024年7月期 第2四半期
セグメント利益率	16.4%	41.8%	39.0%	47.0%

(注) 2021年7月期第2四半期の値は、連結離脱した株式会社デリバリーコンサルティングの活動に起因した売上高及びセグメント利益を除外して算出しております。

(画像解析・A I)

「画像解析・A I」ビジネスユニットにおいては、主に累計3,500万ダウンロードを達成したスマートフォン向け無料提供アプリ「バーコードリーダー/アイコンット」を中心としたスマートフォン向け広告収入のほか、各種ライセンス提供に基づく売上を計上しました。また、次世代のサービスを開発するため、社内での研究開発を積極的に進めております。その結果、同ビジネスユニットの当第2四半期連結累計期間の売上高は、127,719千円(前年同期比11.6%減)、セグメント利益は、30,485千円(前年同期比52.1%減)となりました。売上高及びセグメント利益の減少は、主力商品である「バーコードリーダー/アイコンット」の売上高が減少していることに起因しております。当該サービスは広告収入により収益を獲得するビジネスモデルとなっております。広告収入の元となる広告表示回数が増加傾向にある一方で、経済の先行きに係る不確実性の関係から業界全体の広告単価が減少しており、売上高が減少しております。広告単価の回復傾向については先行きが不透明なため、今後はアプリユーザーから収集する加工食品に関する情報のデータベース化やアプリ内アンケート機能を活用し、B to Bに展開していく予定です。

(ライフスタイルDX)

「ライフスタイルDX」ビジネスユニットにおいては、当社オンラインプラットフォーム「マイクラス」による売上を計上しました。「マイクラス」のクライアントであるカルチャーセンター業界は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により業界再編が進み中小カルチャーセンターの事業撤退が発生している一方で、経営の効率化を迫られた大手カルチャーセンターの情報設備投資が促進されている状況にあります。更に、新型コロナウイルス感染症の収束により、市場規模そのものも回復基調にあります。このような状況下において、商品力の高い「マイクラス」は、大手カルチャーセンターから多くの引き合いがある状況にあり、前年同期比で大きな増収増益となっております。この状況はしばらく継続する見込みとなっております。この他、スマートフォン向けゲーム等各種情報サービスによる売上を計上しました。特に前連結会計年度中に、タイの人気ドラマに出演する複数の俳優をモデルにしたファン向けデジタルサービス(ファンゲーム、フォトフレームアプリ、SNSスタンプ等)を提供する「BOYS MEETING from Thailand」を開始しており、順調な滑り出しを見せております。その結果、同ビジネスユニットの当第2四半期連結累計期間の売上高は、187,246千円(前年同期比54.7%増)、セグメント利益は、60,763千円(前年同期比129.8%増)となりました。

(ブレインテック・DTx)

「ブレインテック・DTx」ビジネスユニットにおいては、DTx、認知機能チェック、医療SI及びNFBエンジン提供等の各種領域で研究開発及び新規事業構築活動を行っております。接骨院・鍼灸院の支援事業を展開するアトラグループ株式会社と合意した、脳波を活用したヘルステック事業のサービス開発は、2023年8月にブレインテックトレーニングサービスとして提供を開始しております。当連結会計年度の下半期に向けて本格的な収益化を達成すべく活動を継続しております。このほか、当社が独自開発したブレインテックエンジン「ALPHA SWITCH」を活用したアプリによる売上や、各種コンサルティングサービスに基づく売上を計上しました。その結果、同ビジネスユニットの当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,937千円(前年同期比441.7%増)、セグメント損失は、22,016千円(前年同期は18,275千円のセグメント損失)となりました。当該セグメントの売上高は、僅少な値となっておりますが、前述の脳波を活用したヘルステック事業のサービス開発に関して、現在保証サービスを組み込んだサブスクパッケージを準備しており今期中にも売り上げの拡大を図る予定です。

(ベンチャーインキュベーション)

「ベンチャーインキュベーション」ビジネスユニットにおいては、有望なスタートアップ企業、各種ベンチャー企業に対するインキュベーションサービスに伴う活動を実施しました。なお、当第2四半期連結累計期間で一部売上高及び利益が発生しておりますが、これらは、全社管理部門で発生した費用及び「コーポレートDX」ビジネスユニットで計上された売上高及びセグメント利益と切り分けが困難であるため、当該ビジネスユニットに値を含めております。なお、当第2四半期連結累計期間に計上されているその他有価証券評価差額金のうち、834,086千円は、同ビジネスユニットの活動に起因したものとなります。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債及び純資産の状況)

①資産の部

資産の総額は、3,893,599千円(前連結会計年度末比1.0%増)です。

流動資産は、総資産の20.8%に相当する811,713千円(前連結会計年度末比12.2%増)です。流動資産の前連結会計年度からの増加額は、88,013千円となっておりますが、この主要因は、現金及び預金が20,521千円減少したこと及びその他の棚卸資産が11,258千円減少した一方で、売掛金及び契約資産が106,032千円増加したこと及び流動資産のその他に含まれる預け金が11,731千円増加したことによるものです。また、現金及び預金の残高は、419,989千円(前連結会計年度末比4.7%減)となっており、流動資産のその他に含まれる預け金の残高は、36,670千円(前連結会計年度末比47.0%増)となっております。これらは、いずれも現金及び現金同等物に相当し、合計で456,660千円(前連結会計年度末比1.9%減)となっており、流動資産の大きな割合を占めております。なお、現金及び預金の減少は、主として「マイクラス」の大口受託開発案件が増加したことにより、一時的に売掛金及び契約資産が増加したことによるものです。

固定資産は、総資産の79.2%に相当する3,081,885千円(前連結会計年度末比1.6%減)です。

有形固定資産は、総資産の0.7%に相当する27,010千円(前連結会計年度末比9.1%減)です。

無形固定資産は、該当するものが無いため(前連結会計年度末も該当するものがございません)残高が計上されておられません。

投資その他の資産は、総資産の78.5%に相当する3,054,875千円(前連結会計年度末比1.6%減)です。投資その他の資産の前連結会計年度からの減少額は48,551千円となっておりますが、この主要因は、余資運用の一環として投資有価証券を売却したこと及び保有する投資有価証券の時価が一部減少したこと等により、投資有価証券が48,331千円減少したことによるものです。なお、貸倒引当金が26,650千円計上されておりますが、投資その他の資産のその他に含まれる長期滞留債権26,650千円に対応して計上されたものになります。債権全額に対して貸倒引当金が設定されているため、貸倒れの確定による多額の追加損失発生の恐れはありません。なお、投資有価証券が2,982,876千円計上されておりますが、この98.8%に相当する2,948,091千円は時価を有する性質のものです。

②負債の部

負債の総額は、負債純資産合計の19.0%に相当する741,036千円(前連結会計年度末比7.3%増)です。

流動負債は、負債純資産合計の4.8%に相当する188,234千円(前連結会計年度末比18.7%増)となっております。流動負債の前連結会計年度からの増加額は、29,615千円となっておりますが、この主要因は、1年内返済予定の長期借入金が23,109千円増加したことによるものです。

固定負債は、負債純資産合計の14.2%に相当する552,801千円(前連結会計年度末比4.0%増)となっております。前連結会計年度からの増加額は、21,083千円となっておりますが、この主要因は、繰延税金負債が16,446千円減少した一方で、長期借入金37,495千円増加したことによるものです。

③純資産の部

純資産の総額は、3,152,563千円(前連結会計年度末比0.4%減)であり、自己資本比率は、80.4%と高い水準を維持しております。純資産の前連結会計年度からの減少額は、13,949千円となっておりますが、この主要因は、以下の通りです。9,743千円の配当を実行した一方で、親会社株主に帰属する四半期純利益を40,193千円計上したことにより利益剰余金が30,449千円増加しました。一方で、保有する投資有価証券を売却したこと及び保有する投資有価証券の時価が一部減少したこと等により、その他有価証券評価差額金が44,440千円減少しました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物は、期首に比べ8,790千円減少し、456,660千円(前連結会計年度末は、465,450千円)となりました。

また、当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローは次の通りです。

① 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、57,512千円の支出(前年同期は、37,159千円の支出)となりました。これは、主として税金等調整前四半期純利益を64,738千円計上した一方で、売上債権及び契約資産が106,032千円増加したこと及び投資有価証券売却益を11,815千円計上したことによるものです。

② 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によるキャッシュ・フローは、3,079千円の支出(前年同期は、207,792千円の収入)となりました。これは、主として投資有価証券の売却により111,973千円の収入があった一方で、投資有価証券の取得により113,416千円の支出があったことによるものです。

③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によるキャッシュ・フローは、51,060千円の収入(前年同期は、29,266千円の収入)となりました。これは、長期借入金の返済により39,396千円の支出があったこと及び配当金の支払により9,543千円の支出があった一方で、長期借入金の借入により100,000千円の収入があったことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2023年9月11日公表の通期業績予想の数値を修正しました。詳細につきましては、本日公表の「通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

当該予想については、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。実際の業績は、様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

(注) 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社で判断したものです。予想に様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合がありますので、この業績予想に全面的に依拠して投資等の判断を行うことは差し控えられるようお願いいたします。また、実際の業績は、様々な要因により本業績予想とは異なる結果となり得ることをご承知おきください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	440,510	419,989
売掛金及び契約資産	215,411	321,443
商品	1,652	1,484
仕掛品	3,729	5,210
その他の棚卸資産	15,010	3,752
その他	47,391	59,838
貸倒引当金	△6	△5
流動資産合計	723,699	811,713
固定資産		
有形固定資産	29,723	27,010
投資その他の資産		
投資有価証券	3,031,207	2,982,876
その他	98,870	98,650
貸倒引当金	△26,650	△26,650
投資その他の資産合計	3,103,426	3,054,875
固定資産合計	3,133,149	3,081,885
資産合計	3,856,849	3,893,599

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年7月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	10,885	11,393
1年内返済予定の長期借入金	69,572	92,681
未払法人税等	9,744	24,561
賞与引当金	11,300	6,968
その他	57,117	52,630
流動負債合計	158,619	188,234
固定負債		
長期借入金	70,909	108,404
繰延税金負債	453,613	437,166
資産除去債務	7,194	7,230
固定負債合計	531,717	552,801
負債合計	690,336	741,036
純資産の部		
株主資本		
資本金	823,267	823,267
資本剰余金	1,029,669	1,029,669
利益剰余金	291,602	322,052
自己株式	△39,724	△39,724
株主資本合計	2,104,814	2,135,264
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,041,207	996,766
その他の包括利益累計額合計	1,041,207	996,766
非支配株主持分	20,491	20,532
純資産合計	3,166,513	3,152,563
負債純資産合計	3,856,849	3,893,599

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
売上高	421,421	479,698
売上原価	254,006	277,527
売上総利益	167,415	202,171
販売費及び一般管理費	141,188	168,053
営業利益	26,226	34,117
営業外収益		
受取利息	17,760	18,364
受取配当金	7,144	2,369
投資有価証券売却益	31,292	11,815
その他	1	1,034
営業外収益合計	56,199	33,583
営業外費用		
支払利息	1,085	892
投資有価証券売却損	492	31
投資有価証券評価損	41,980	—
支払手数料	2,052	2,039
その他	1,177	—
営業外費用合計	46,788	2,963
経常利益	35,637	64,738
税金等調整前四半期純利益	35,637	64,738
法人税、住民税及び事業税	6,424	21,337
法人税等調整額	3,536	3,166
法人税等合計	9,961	24,503
四半期純利益	25,676	40,234
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△361	41
親会社株主に帰属する四半期純利益	26,037	40,193

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
四半期純利益	25,676	40,234
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37,391	△44,440
その他の包括利益合計	△37,391	△44,440
四半期包括利益	△11,715	△4,206
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△11,354	△4,247
非支配株主に係る四半期包括利益	△361	41

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	35,637	64,738
減価償却費	5,133	4,309
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	3	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△12,000	△4,331
受取利息及び受取配当金	△24,904	△20,734
支払利息	1,085	892
投資有価証券売却損益 (△は益)	△30,800	△11,783
投資有価証券評価損益 (△は益)	41,980	—
為替差損益 (△は益)	1,090	△742
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△88,459	△106,032
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△7,514	9,944
仕入債務の増減額 (△は減少)	944	508
未払法人税等 (外形標準課税) の増減額 (△は減少)	81	614
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△2,980	1,686
その他の資産の増減額 (△は増加)	△6,750	△2,813
その他の負債の増減額 (△は減少)	7,511	△6,809
小計	△79,940	△70,552
利息及び配当金の受取額	23,718	20,704
利息の支払額	△1,127	△1,031
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	20,188	△6,633
営業活動によるキャッシュ・フロー	△37,159	△57,512
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△337	△1,636
投資有価証券の取得による支出	△52,166	△113,416
投資有価証券の売却による収入	260,296	111,973
投資活動によるキャッシュ・フロー	207,792	△3,079

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	70,000	100,000
長期借入金の返済による支出	△31,226	△39,396
配当金の支払額	△9,507	△9,543
財務活動によるキャッシュ・フロー	29,266	51,060
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1,083	742
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	198,815	△8,790
現金及び現金同等物の期首残高	616,945	465,450
現金及び現金同等物の四半期末残高	815,761	456,660

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年8月1日 至 2023年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレ ートDX (注)1	画像解析・ AI	ライフスタ イルDX	ブレインテ ック・DT x	計				
売上高									
一時点で移転さ れる財	57,775	143,627	77,717	150	279,270	—	279,270	—	279,270
一定期間にわたり 移転される財	97,684	910	43,349	207	142,151	—	142,151	—	142,151
顧客との契約から 生じる収益	155,459	144,537	121,067	357	421,421	—	421,421	—	421,421
外部顧客への売 上高	155,459	144,537	121,067	357	421,421	—	421,421	—	421,421
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	155,459	144,537	121,067	357	421,421	—	421,421	—	421,421
セグメント利益 又は損失(△)	60,569	63,613	26,437	△18,275	132,345	△11,812	120,532	△94,305	26,226

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートDXセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)2	合計	調整額 (注)1,3	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)4
	コーポレ ートD X (注)1	画像解析・ A I	ライフスタ イルD X	ブレインテ ック・D T x	計				
売上高									
一時点で移転される財	82,112	119,374	119,034	1,677	322,199	—	322,199	—	322,199
一定期間にわたり移転される財	80,681	8,345	68,212	260	157,499	—	157,499	—	157,499
顧客との契約から生じる収益	162,793	127,719	187,246	1,937	479,698	—	479,698	—	479,698
外部顧客への売上高	162,793	127,719	187,246	1,937	479,698	—	479,698	—	479,698
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	162,793	127,719	187,246	1,937	479,698	—	479,698	—	479,698
セグメント利益又は損失(△)	76,532	30,485	60,763	△22,016	145,764	△14,615	131,148	△97,031	34,117

(注) 1 主に、株式会社メディアシークキャピタルで発生するベンチャーインキュベーションのビジネスユニットで発生した活動は、一部全社管理部門及びコーポレートD Xセグメントで発生した活動との切り分けが困難であるため、これらに含めております。

2 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主として研究開発部門の新規領域での事業活動等になります。

3 セグメント利益又は損失(△)の調整額は、全社管理部門の費用です。

4 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。